

都道府県別賞一等

## 備えあれば元気あり

神奈川県 慶應義塾普通部 二学年

谷 淳広

「ちよつと行ってくる」母はそう言つて、片道二時間近くかけて出かけていく。毎年、同じように出かけていき、かれこれ七年ほど続いている。母は毎年人間ドックを受診するのだが、きまつて「乳ガンの疑い」と指摘され、再検査となるそう。そのたびに小旅行並みの場所にある病院まで行く。母いわく、「お母さんの身体にはいつも『できもの』ができちゃうから、遠くても信頼できる先生に診てもらった方が安心」とのことだ。幸いにも、毎回疾患名は異なるものの、良性疾患との診断を受けている。

僕は一度だけ、父と話しながら涙を流す母の姿を見てしまったことがある。先生から、「かなり危険な顔つきの腫瘍がある」と言われたそう。生検の結果、事なきを得たようだが、これを機に、母はたくさんの資料を取り寄せ、検討し、ガン保険に加入したそう。僕や父には、しっかりとした生命保険に加入させていたそうだが、母は自分のことは後回しにしていたらしい。先日僕は、今年も同様、病院に向かう母に聞いてみた。「怖くないの？」と。毎年のように身体の中に腫瘍ができて、そのことを指摘され、検査する。今までは良性疾患と診断されてきたが、もしかしたら今年は……と思わないのだろうか、と僕は心配する。検査結果を聞きに行く日、学校がお休みの日だった僕は、母に付いて病院に行ったことがある。診察室に入る瞬間、僕は小さく足が震えた。そして隣にいる母をちらりと見ると、いつも通り平然としていた。その時は、「大丈夫でしたよ」という先生の言葉を前もって聞いていたのではないかと思ひ、深く考えなかったが、母はなぜこんなにも平然としていられるのか、と僕は疑問だった。母は、「信頼できる先生と、ガンになっても安心して治療が受けられる生命保険がついているから、怖くないよ。元気だよ。」と言う。そうか。手術に慣れた名医の先生と、治療をサポートしてくれる生命保険がついているから、母は「ガンに」なつてしまつていても「大丈夫。」と思つているから平気なんだ。

それまで僕は、保険のCM等を見るたびに、どこか「なくてもなんとかなるもの」「ちよつともつたいたいもの」のような気持ちでいた。生命保険というお守りは、持たなくてもなんとかなる、と思つていた。が、生命保険には色々あり治療を安心して受けられるようにしてくれる生命保険もあることを知つた。それは加入することで「人を元気にすること」ができるのだ。「病は気から」

## 第60回中学生作文コンクール

という言葉があるように、大丈夫、と思う気持ちだが、母からガンを遠ざけていられるように感じた。生命保険はよく、「備えあれば憂いなし」という言葉に例えられるが、違う、「備えあれば元氣あり」だ。生命保険は信頼できる先生と同様、不安を感じる本人に寄り添ってくれる存在なのだ。母を支えてくれている生命保険の存在に、僕は心から感謝したい。